

令和7年度 学校評価アンケート

実施日:令和7年12月23日～令和8年2月6日

対象 :保護者 234(人)/352(人) 66%

生徒 339(人)/352(人) 96%

教員 33(人)/34(人) 97%

評議員

評価 : ④そう思う:4 ③どちらかといえばそう思う:3 ②あまりそう思わない:2 ①そう思わない:1

				集計結果	集計結果	前年比	学校評価(自己分析)	学校評価(評議員)	評議員 総合評価
				R7	R6【参考】	R6→R7			
学校全般	1	保護者	本校の教育内容は、国際力の向上や多様な興味・関心、進路志望等に対応していると思いませんか。	3.6	3.6	—	これまで長年にわたって積み上げてきたプログラムと、新しく始まった探究活動が相乗効果を発揮して、ますます多様になる生徒の興味・進路に対応できるよう、目標やビジョンを共有し、各部署がますます連携を深めて取り組みたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の特色である国際教育を高い水準を保つための努力を感じる。英語力の向上だけでなく、卒業後の海外進学に関して、より具体的で実践的な情報提供や、生徒が留学をより身近な選択肢として捉えられるようなサポートを期待している。</li> <li>探究活動で地域の課題解決や地方創生に役に立つ事例もあり、大学の入試の評価も重視されるようになっていっているので、今後力を入れて取り組んでいきたい。</li> <li>様々なプログラムが用意されていて、生徒にとっては良いが、教員は大変だと思われる。</li> </ul>	4 4 4 4
		生徒	本校の教育内容は、国際力の向上や多様な興味・関心、進路志望等に対応していると思いませんか。	3.6	3.6	—			
		教員	本校の教育内容は、国際力の向上や多様な興味・関心、進路志望等に対応していると思いませんか。	3.5	3.6	▲0.1			
	2	保護者	本校の学校行事(文化祭、体育祭、球技大会、海外研修など)は適切に実施されていると思いませんか。	3.6	3.6	—	近年の酷暑に対応し、体育祭の時期を遅らせている。文化祭や3月の球技大会は、芦屋国際中等教育学校と交流できる貴重な機会となっている。今後とも連携したい。さまざまな行事が生徒にとって主体性や実行力を身につける機会となるよう、保護者の意見もいただきながら、常により良いものを目指したい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化祭や体育祭、海外研修などの学校行事は、単なるイベントではなく、生徒たちが密な人間関係を築き、自ら考え行動する貴重な成長の場であると考え。生徒たちの主体性を尊重しながら、安全面を考慮し、円滑に運営できていると思う。</li> <li>生徒数が多くないが故に、イベントを地域を巻き込むなどできると、もっと活発になるかと思う。</li> </ul>	3 4 4 4 3
		生徒	本校の学校行事(文化祭、体育祭、球技大会、海外研修など)は適切に実施されていると思いませんか。	3.6	3.5	0.1			
		教員	本校の学校行事(文化祭、体育祭、球技大会、海外研修など)は適切に実施されていると思いませんか。	3.3	3.3	—			
	3	保護者	本校の学校行事等に、保護者の方が参加する機会が十分あり、交流が図られていると思いませんか。	3.1	3.0	0.1	今年度導入した楽メを利用することで、学校からの情報を保護者により早く確実に届けられるようになった。学校のことをお知らせしたり実際に行事に来ていただいたりすることで、相互の理解や信頼が深まり、生徒の成長に良い効果をもたらすと思われる。今後とも温かく見守っていただけるよう、来校いただける機会を増やしたり、情報発信を増やしたりしていきたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事の公開を通じて、学校と保護者のコミュニケーションは図られていると感じている。現在は行事に出席見守るという形だが、希望する保護者に対しては、もう少し深く生徒たちの活動や学校生活に関わったり、サポートしたりできる機会があれば嬉しいと思う。</li> <li>保護者の参加は少ないように感じた。</li> <li>「楽メ」というツールが、学校と保護者の心的距離を短くしてくれることを期待している。</li> </ul>	3 — 1 4 3
		生徒	本校の学校行事等に、保護者の方が参加する機会が十分あり、交流が図られていると思いませんか。	3.0	3.0	—			
		教員	本校の学校行事等に、保護者の方が参加する機会が十分あり、交流が図られていると思いませんか。	3.1	3.1	—			
4	保護者	HPや年次便り、各種案内を活用して学校からの連絡や情報発信を適切に行っていると思いませんか。	3.3	3.1	0.2	各年次とも熱心に年次通信を発行し、学校の様子を保護者に伝えている。また、それが年次の生徒たちの結束を強める働きもしているとされる。今後とも各年次や部署と連携し、外部への情報発信に取り組みたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>HPや案内などを通じて学校の取り組みや教育方針を発信していただいている。</li> <li>HPの情報発信は充実しており、最新記事の更新も早い。</li> </ul>	4 — 3 4 —	
	生徒	HPや年次便り、各種案内を活用して学校からの連絡や情報発信を適切に行っていると思いませんか。	3.3	3.3	—				
	教員	HPや年次便り、各種案内を活用して学校からの連絡や情報発信を適切に行っていると思いませんか。	3.5	3.3	0.2				
5	保護者	本校では、オープンハイスクールや学校説明会等を通じて、中学生やその保護者へ情報を発信し、広報活動に取り組んでいると思いませんか。	3.4	3.4	—	広報担当者として考えられる限りの取り組みはしてきたように思う。少ない人員で県内の広い地域をカバーする必要があるため、職員全体の協力なしには難しい。説明会やオープンハイスクールの実施時期、場所、内容に関して、最大限の効果が発揮できるように、今後とも引き続き検討を重ねる必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>オープンハイスクールや説明会におけるプログラム構成や、先生方の熱心な努力により、本校の教育理念や「国際力」という強みが、中学生やその保護者の方々に伝わっていると感じている。</li> <li>学校説明会の開催回数も多く、いろいろな場所で開催しており、充分ではないかと思う。</li> <li>広報活動は難しさを増している。広報だけでは限界があり、生徒たちの日常を情報発信できる方法を考え、発信する情報量を増やしていくかのように思える。</li> </ul>	4 4 3 4 3	
	生徒	本校では、オープンハイスクールや学校説明会等を通じて、中学生やその保護者へ情報を発信し、広報活動に取り組んでいると思いませんか。	3.3	3.1	0.2				
	教員	本校では、オープンハイスクールや学校説明会等を通じて、中学生やその保護者へ情報を発信し、広報活動に取り組んでいると思いませんか。	3.7	3.9	▲0.2				

令和7年度 学校評価アンケート

実施日:令和7年12月23日～令和8年2月6日

対象:保護者 234(人)/352(人) 66%

生徒 339(人)/352(人) 96%

教員 33(人)/34(人) 97%

評議員

評価:④そう思う:4 ③どちらかといえばそう思う:3 ②あまりそう思わない:2 ①そう思わない:1

			集計結果			学校評価(自己分析)	学校評価(評議員)	評議員 総合評価	
			R7	R6【参考】	前年比 R6→R7				
学習指導	6	保護者	本校の授業展開は、少人数編成等の工夫がされ、お子様に沿った学習形態がとられていると思いますか。	3.4	3.4	—	多くの教科・科目の授業において少人数編成、習熟度別指導、授業内でのグループワーク等の工夫した授業展開がなされており、同時にそれが本校生徒の実態に沿ったものとなっていることが比較的高い数値となっており、同時にそれが本校生徒の実態に沿ったものとなっているものと思われる。 引き続き、このシステムを継続し、より充実させることで、高評価を維持できるようカリキュラムの検討をすすめていきたいと考えている。	・少人数編成や丁寧な授業展開は、生徒一人ひとりの理解度や個性に寄り添った、効果的な学習環境であると実感している。 ・教員の意欲には若干はらつきもあるが、総体としては工夫できていると感じる。 ・少人数編成が工夫された授業展開が評価されていることは良いことと思う。	4 4 3 4 4
		生徒	少人数編成の授業展開等、生徒に沿った学習形態がとられていると思いますか。	3.4	3.4	—			
		教員	少人数編成の授業展開等、生徒に沿った学習形態がとられていると思いますか。	3.6	3.5	0.1			
	7	保護者	本校の教員は、ICT機器を適切に活用するなど、授業を工夫し、質の高い学習指導を行っていると思いますか。	3.2	3.1	0.1	昨年度よりも、PPIによるスライドなど、さまざまな資料を事前に作成して授業に臨む教員が増えている。それらをうまく活用して授業を行ったことが生徒の理解を促進し、また保護者への理解にもつながり、結果として今回のポイント上昇へと繋がったのではないかと感じている。 教員の評価が下がった原因として、生成AIの利用に対する戸惑い、"もっともっとICTが使えるようにならなければ"という、時代の変化に伴う教員自身の意識の向上が考えられる。来年度以降こういった分野への校内研修などを企画するなどの方法によって、この部分の解決を図っていくことが良いのではないかと考えている。	・今後も、ICTの利便性を最大限に活かしつつ、対面での対話や思考の深まりを促すような、本校ならではのハイブリッドな学習指導を継続していただきたい。生徒たちがAIをいかに正しく、賢く活用するかというAIリテラシーや、情報とどう向き合うべきかといった倫理的な視点は、今後の教育においてますます重要になってくると感じている。 ・以前の教科書中心の授業から最近ではICT機器を活用した授業へと変わってきているが、先生によってICT機器の扱いに不慣れな方がいる。 ・教員が安心して生成AIを活用できるように、環境整備、内部研修、スキル共有ができればよい。	3 3 3 3 3
		生徒	本校の教員は、ICT機器を適切に活用するなど、授業を工夫し、質の高い学習指導を行っていると思いますか。	3.2	3.1	0.1			
		教員	本校の教員は、ICT機器を適切に活用するなど、授業を工夫し、質の高い学習指導を行っていると思いますか。	3.3	3.4	▲0.1			
	8	保護者	本校の教員は、評価の観点や評価方法を周知し、学習評価を適正に行っていると思いますか。	3.3	3.3	—	昨年度と比較して、現状維持という結果が出された。本校では、すべての科目において毎学期末に評価方法について報告をしてもいい、成績会議でそれが適正であるかどうか、全教員の目でチェックを行っている。そういった動きが引き続き評価されているものと考えられる。 今後も引き続き、生徒や保護者に対して、より丁寧な説明をおこなっていくなど、生徒や保護者が適正な評価を受けていると感じてもらえるような工夫を続けていく必要があると考えている。	・透明性の高い評価は、生徒が自分自身の現在の到達度を客観的に把握し、自ら目標を立てて学ぶための大切な道標になるので、学習評価を適正に実施していることに感謝している。 ・評価については単に良く知っているとかだけではなく、現状を認識し、課題をどうやって解決していくのか、意欲的に取り組んでいるのか等に重点を置いてほしい。 ・日本の学校は「評価」「評価」と言いすぎるくらいがあると感じている。	4 3 — 3 3
		生徒	本校の教員は、評価の観点や評価方法を周知し、学習評価を適正に行っていると思いますか。	3.4	3.4	—			
		教員	本校の教員は、評価の観点や評価方法を周知し、学習評価を適正に行っていると思いますか。	3.3	3.3	—			
9	保護者	C.C.C.(総合的な探究の時間)を中心に教育活動や行事で、お子様の探究的な学びが適切に推進されていると思いますか。	3.4	3.3	0.1	保護者および生徒の評価ポイントは上がり、教員の評価ポイントは下がるという現象が起きた。C.C.C.(総合的な探究の時間)については、「ひょうごリーダーハイスクール」の指定を受けて、「C.C.C.から未来探究へ」と、その内容を大きく変化させており、そのことが従来の内容を良しとしていた教員からみて賛成できない部分があるのではないかと推測される。 今後さらに、生徒によるプレゼンテーションの機会を増やしたり、「未来探究」についての校内研修会を担当部署が開催するなどの方法によって、教員間での情報共有や理解が進んでいくものと考えている。	・本校のC.C.C.は、知識の習得にとどまらず、自ら課題を発見し、解決に向けて試行錯誤する教育の核であると感じている。今後も、この探究の学びが、学内にとどまらず、実社会の課題やキャリア教育とより密接に結びつくような機会をさらに広げていただきたい。 ・「ひょうごリーダーハイスクール」の指定を受けて、今後はその成果が充分に出るように更に進化させてほしい。 ・担当者の尽力は素晴らしいと思う。また、学年の先生も総じて協力的に取り組んでいると思う。 ・教員のC.C.C.に対する評価が下がった点が気がかりである。	4 4 4 3 3	
	生徒	C.C.C.(総合的な探究の時間)を中心に教育活動や行事で、探究的な学びが適切に推進されていると思いますか。	3.5	3.4	0.1				
	教員	C.C.C.(総合的な探究の時間)を中心に教育活動や行事で、探究的な学びが適切に推進されていると思いますか。	3.1	3.2	▲0.1				

令和7年度 学校評価アンケート

実施日:令和7年12月23日～令和8年2月6日

対象:保護者 234(人)/352(人) 66%

生徒 339(人)/352(人) 96%

教員 33(人)/34(人) 97%

評議員

評価:④そう思う:4 ③どちらかといえばそう思う:3 ②あまりそう思わない:2 ①そう思わない:1

				集計結果	集計結果	前年比	学校評価(自己分析)	学校評価(評議員)	評議員 総合評価
				R7	R6【参考】	R6→R7			
進路指導	10	保護者	海外進学等をはじめ、進路指導に関する情報が適切に発信され、お子様の目標達成に役立つよう行われていると思いますか。	3.2	3.2	—	同じ項目について、前年度と変わらない指標である。前年度に引き続き、進路指導部からの情報提供・発信が不足していることの表れであると思われる。 保護者連絡ツールなどを積極的に活用し、進路指導の情報提供や、実施した進路指導内容の情報発信を定期的・積極的にこなすことを心がけていきたい。	・海外大学への挑戦や多様な専門分野への道についても、さらに具体的かつ実践的な事例や情報の共有を願いたい。 ・保護者や生徒の皆さんが学校の行う進路指導に対して何を望んでいるのか、何に不満を感じているかなど、詳細をヒアリングする必要がある。	4 — 3 3 4
		生徒	海外進学等をはじめ、進路指導に関する情報が適切に発信され、一人一人の目標達成に役立つよう行われていると思いますか。	3.4	3.4	—			
		教員	海外進学等をはじめ、進路指導に関する情報が適切に発信され、一人一人の目標達成に役立つよう行われていると思いますか。	3.4	3.4	—			
	11	保護者	大学(兵庫県立大学等)との連携や接続した取り組みは充実したのになっていていると思いますか。	3.2	3.1	0.1	同じ項目について、教員の満足度は前年度比で上回っているが、生徒と保護者については満足度が下回っている。現在、兵庫県立大との取り組みは国際教育事・業部がおこなっており、進路指導との結びつきがイメージできていないのではないかとと思われる。 このまま、兵庫県立大との連携について、進路指導部の項目でアンケートをとるのであれば、国際教育事業部と進路指導部が協力し、兵庫県立大との連携取り組みの中に、進路指導の要素を入れていく必要があるのではないかとと思われる。	・兵庫県立大学をはじめとする近隣大学との連携は、地域社会と本校を結ぶ大切な窓口であり、生徒たちにとって大変有意義な取り組みであると認識している。最先端の研究を行う専門機関や海外の大学との連携など、より高みを目指すような環境構築を検討いただきたい。	4 — — 3 3
		生徒	大学(兵庫県立大学等)との連携や接続した取り組みは充実したのになっていていると思いますか。	3.4	3.3	0.1			
		教員	大学(兵庫県立大学等)との連携による取り組み充実したものであると思いますか。	3.5	3.5	—			
	12	保護者	進路説明会等、希望進路の実現のための取り組みが十分なされていると思いますか。	3.1	3.0	0.1	同じ項目について、生徒・教員の満足度は前年度比であまり変化がないが、保護者のみ満足度が下回っている。ひとえに、進路指導部から保護者への情報提供・発信が不足していることの表れであると思われる。 保護者連絡ツールなどを積極的に活用し、進路指導の情報提供や、実施した進路指導内容の情報発信を定期的・積極的にこなすことを心がけていきたい。	・校内で行われている進路指導や、生徒たちが得ている有益な情報が、必ずしも家庭まで十分に届いていないと感じる。	3 — 4 — 3
		生徒	進路説明会等、希望進路の実現のための取り組みが十分なされていると思いますか。	3.3	3.4	▲0.1			
		教員	進路説明会等、希望進路の実現のための取り組みが十分なされていると思いますか。	3.5	3.5	—			

令和7年度 学校評価アンケート

実施日:令和7年12月23日～令和8年2月6日

対象:保護者 234(人)/352(人) 66%

生徒 339(人)/352(人) 96%

教員 33(人)/34(人) 97%

評議員

評価:④そう思う:4 ③どちらかといえばそう思う:3 ②あまりそう思わない:2 ①そう思わない:1

				集計結果	集計結果	前年比	学校評価(自己分析)	学校評価(評議員)	評議員 総合評価
				R7	R6【参考】	R6→R7			
生徒指導	13	保護者	お子様は、本校のマナーやルール(頭髪・服装など)を適切に守っていると思いますか。	3.4	3.3	0.1	現在、校内ルール、特に服装マナーについて、学校の理想と実態の間に少なからずギャップが生じている。このズレを『取り締まり』で解決するのではなく、生徒・保護者・教職員が同じテーブルにつき、今の時代にふさわしいルールの在り方を共に考える時に来ているのかもしれない。その一環として今年度は自由登校期間を2度設けた。生徒・教員の全員が納得して守れる『自分たちのルール』へとアップデートするためにどうしていけばよいか今後検討していきたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自由登校」の取り組みは、生徒の自主性を重んじる教育方針を体現しており、保護者として非常に高く評価している。近年の気候変動により気温差が激しい中、生徒自身がその日の気温に合わせて適切に体温調節を行えることは、健康管理の観点からも非常に理にかなっている。</li> <li>・生徒はマナーやルールを適切に守っていると思う。</li> <li>・気持ちのいい生徒さんたちが多く感じる。</li> <li>・理想と実態のギャップの内容や原因について、どのように把握をされているか知りたい。ルールやマナーは時代や環境で変化するものであり、相互理解と共有を教育の現場で実現してほしい。</li> </ul>	4 4 4 3 3
		生徒	本校生徒として本校のマナーやルール(頭髪・服装など)を適切に守っていると思いますか。	3.3	3.4	▲0.1			
		教員	本校生徒として本校のマナーやルール(頭髪・服装など)を適切に守っていると思いますか。	1.8	1.9	▲0.1			
	14	保護者	本校では、部活動や生徒会活動が活発に実施されていると思いますか。	3.0	2.9	0.1	生徒会は現在、学校行事や広報活動のサポートに注力しているが、本来は生徒自身のアイデアを形にする『独自活動』も行っていないがそこに至っていない。また、部活動、特に運動部活動においては、現在の部員数でいかに充実した活動を継続させるか、従来の枠組みに捉われない新たな運営形態(芦屋中等教育学校との合同チームや活動の見直し等)を今後進める必要があると感じる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の活動の様子や、生徒会がどのような想いで取り組んでいるのかといった具体的な活動内容について、保護者の立場からはなかなか目にする機会がなく、現状を十分に把握できていない。</li> <li>・部活動や生徒会活動に於いて生徒自身の考えに基づく運営が望ましいので、今後はその方向での指導・助言を望む。</li> <li>・通学圏が広い故の難しさを抱えている。</li> <li>・部活動の運営はどの学校も難しくなっていると思われる。生徒の思いも尊重しつつ、新たな活動方法を検討せざるを得ないと感じる。</li> </ul>	4 4 3 3 3
		生徒	本校では、部活動や生徒会活動が活発に実施されていると思いますか。	3.1	2.9	0.2			
		教員	本校では、部活動や生徒会活動が活発に実施されていると思いますか。	2.2	2.3	▲0.1			
	15	保護者	本校では、いじめや不登校への対応が適切であると思いますか。	3.2	3.2	-	アンケート調査や専門チームによる対応など、顕在化した事案への仕組みは着実に稼働している。しかし、教員がすべてを把握できていると過信せず、水面下の小さな変化を見逃さないことが肝要である。今後はこれまで以上に一人ひとりと向き合う時間を大切に、丁寧な面談を通じて、生徒の心の機微を汲み取る努力を継続していきたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒たちは落ち着いた環境で学校生活を送れていると思う。</li> <li>・詳細はわからないが、ネガティブな情報を耳にしない。</li> <li>・実態把握に努められていると思うが、それぞれの評価点数をどう解釈すればいいのかわからない。</li> </ul>	4 - 3 3 3
		生徒	本校では、いじめや不登校への対応が適切であると思いますか。	3.2	3.3	▲0.1			
		教員	本校では、いじめや不登校への対応が適切であると思いますか。	3.1	3.6	▲0.5			
人権教育	16	保護者	人権について身近な問題から、歴史・社会的問題等について、自他の人権を守る態度を育てるために、人権HRや講演会等を実施していると思いますか。	3.2	3.1	0.1	今年度の人権講演会は、学年からの希望もあり、「コミュニケーションの方法」や「人との関わりに関する内容を実施した。行動心理学に基づくと人の関わりや心の持ち方をご講義いただき、これまでと違った角度から人権感覚を養う機会が設定できた。しかし、事前の人権HRの設定や身近な人権問題に触れる時間の設定が上手くできなかったことが反省であり、また、学校評価の結果にもそのことが表れているのではないかと考える。来年度以降は様々な人権問題に触れられる機会や、人権感覚を養う時間を増やし、人権を守る態度の育成に努めたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な価値観が交差するこれからの社会において、人権についての深い考察や理解は、これまで以上に重要になってくる。人権問題をより自分事として捉え、実社会の複雑な課題に踏み込んだ学びの機会を、今後さらに拡充していただきたい。</li> <li>・詳細は分かりませんが、ネガティブな情報等は聞かない。</li> <li>・「事前の人権HRの設定や身近な人権問題に触れる時間の設定が上手くできなかった」ことについて、次年度以降に有効な対策を打ってほしい。</li> </ul>	3 - 3 3 3
		生徒	人権について身近な問題から歴史・社会的問題等について、自他の人権を守る態度を育てるために、人権HRや講演会等を実施していると思いますか。	3.4	3.5	▲0.1			
		教員	人権について身近な問題から歴史・社会的問題等について、自他の人権を守る態度を育てるために、人権HRや講演会等を実施していると思いますか。	2.8	3.1	▲0.3			

令和7年度 学校評価アンケート

実施日:令和7年12月23日～令和8年2月6日

対象:保護者 234(人)/352(人) 66%

生徒 339(人)/352(人) 96%

教員 33(人)/34(人) 97%

評議員

評価:④そう思う:4 ③どちらかといえばそう思う:3 ②あまりそう思わない:2 ①そう思わない:1

			集計結果			学校評価(自己分析)	学校評価(評議員)	評議員 総合評価	
			R7	R6【参考】	前年比 R6→R7				
保健	17	保護者	本校では、保健室やキャンパスカウンセラーなど、悩み事を相談できる体制が整っていると思いますか。	3.2	3.1	0.1	本校の教育相談は平均して月3回と、小規模校としては多く実施している。今年度は希望者が多く、2回実施回数を増やすことになった。保健だよりや掲示物等で毎月お知らせしているため生徒も保護者も利用しやすい体制ではある。今年度も継続で利用する生徒が多かった。 はじめての生徒でも、利用しやすい環境づくり、啓発に努めたい。	・保健室やキャンパスカウンセラーという専門的な相談窓口が整っていることは、生徒たちの精神的な健康を守る上で、極めて重要なセーフティネットであると認識している。 ・今後はいつでも誰でも利用できるような相談体制の充実を望む。 ・学校の方で十分な体制がとられていることと思うが、教員の評価が下がった点が気になる。	4 4 4 3
		生徒	保健室やキャンパスカウンセラーなど、悩み事を相談できる体制が整っていると思いますか。	3.4	3.4	—			
		教員	保健室やキャンパスカウンセラーなど、悩み事を相談できる体制が整っていると思いますか。	3.5	3.6	▲0.1			
	18	保護者	本校では、校内の環境美化や整理整頓に努めていると思いますか。	3.0	3.1	▲0.1	経年劣化による汚れもあるため、改善するとすれば、美しく見える工夫とこまめな清掃・点検、整理整頓が必要だと感じた。例えば掲示物や植物などを配置することで清潔で爽やかな印象を与えることになると思う。掃除については髪の毛の塊などが落ちていることがあるため、気づいたらゴミ箱にいれるよう環境委員を中心に呼び掛けたり実施してもらおうようにしたい。カーテンなども破れていたり薄くなっているものもあるため、交換したい。廊下などに置きっぱなしになっているモップやワイパーなども状態によっては清潔感を損なうものであると考えるため、配置についても工夫を凝らしたい。生徒に少しでも清潔で爽やかな環境で生活してもらえよう努めたい。	・校舎の老朽化が進んでいる箇所があることは否めないが、教職員や生徒の皆さんが日々、清掃や整理整頓に大変努力していると感じる。 ・今後は校内に限らず学校周辺のゴミ拾いなど実施してほしい。 ・悪い印象を持ったことはない。日本は教育にお金をかけないので、その中での公立校としてはよくやっているのではないかな。 ・清掃や整理整頓に問題があるようならば、生徒の協力も得つつ、改善する必要がある。	4 3 4 3 3
		生徒	本校では、校内の環境美化や整理整頓に努めていると思いますか。	3.0	3.0	—			
		教員	本校では、校内の環境美化や整理整頓に努めていると思いますか。	2.4	2.5	▲0.1			
	19	保護者	本校では、お子様の健康を保持するために、健康相談や保健指導等を適切に行っていると思いますか。	3.1	3.1	—	本校の保健室は体調不良者やそれ以外の心身の相談で利用しやすい雰囲気づくりの工夫がされている。あまり保健室に来ない生徒でも利用しやすいように保健だよりや掲示物等を通して、生徒・保護者に呼びかけていきたい。	・今後も、家庭と連携しながら、生徒たちが心身ともに健やかに成長できる環境を維持してほしい。 ・教員の評価が下がった点が気になる。	4 — — 3 3
		生徒	本校では、生徒一人一人の健康を保持するために、健康相談や保健指導等を適切に行っていると思いますか。	3.2	3.2	—			
		教員	本校では、生徒一人一人の健康を保持するために、健康相談や保健指導等を適切に行っていると思いますか。	3.2	3.4	▲0.2			

令和7年度 学校評価アンケート

実施日:令和7年12月23日～令和8年2月6日

対象 :保護者 234(人)/352(人) 66%  
 生徒 339(人)/352(人) 96%  
 教員 33(人)/34(人) 97%  
 評議員

評価 : ④そう思う:4 ③どちらかといえばそう思う:3 ②あまりそう思わない:2 ①そう思わない:1

			集計結果			学校評価(自己分析)	学校評価(評議員)	評議員 総合評価	
			R7	R6【参考】	R6→R7				
国際教育	20	保護者	本校では、国際交流や多文化理解に関する講演会など、様々な取り組みが充実していると思いますか。	3.5	3.5	—	オンライン交流や国際交流セミナーの開催、また各国からの訪日団の受入で校内外での交流やホストファミリーの機会を設けている。また、専門的知識や海外経験を持つ方々を招聘し、講演会等を実施した。講演会の案内や報告の更なる充実に加え、保護者にも参加いただける機会を増やすことを今後の課題として検討していきたい。	・国際交流や多文化理解に関する取り組みは、生徒たちの視野を広げ、多様な価値観を養う上で非常に有意義なものと感じている。グローバル社会を生き抜く生徒たちにとって、第一線で活躍される方々の生の声を聴く講演会などは、何物にも代えがたい学びの機会である。ぜひ、開催回数や内容をさらに充実させていきたい。学校側の自己評価において、「保護者も参加できる機会の拡充」を今後の課題として検討するという点に、PTAとしても強く賛同し、大きな期待を寄せている。 ・充実した内容で、熱心な取り組みがなされていると思う。 ・ホストファミリーなどに関して保護者の協力も得られており、優れた運営をしている。	3 — 4 4 4
		生徒	本校では、国際交流や多文化理解に関する講演会など、様々な取り組みが充実していると思いますか。	3.6	3.6	—			
		教員	本校では、国際交流や多文化理解に関する講演会など、様々な取り組みが充実していると思いますか。	3.4	3.6	▲0.2			
	21	保護者	本校では、語学力や国際力向上のために、外務省や外部の専門機関と連携した取り組みが充実していると思いますか。	3.2	3.2	—	国際力向上のために、外部の研究者等を招聘し講演会等を行った。また、兵庫県立大学商経学部との高大連携教育協定における講師招聘や、大学への授業参加等として、語学力向上や国際力向上に注力している。その他の専門機関を活用した語学力、国際力向上の機会は、今後の検討課題である。	・より定期的に外部連携の機会を増やしていただきたい。例えば、現場の第一線で活躍される方々との対話や、専門知見に触れるプロジェクトなど、本校ならではのネットワークをさらに広げ、深めていくことを切に願っている。 ・国際力向上のために県と市の垣根を超えた教員や中学生との交流を図ってほしい。 ・充実した内容で取り組みが行われていると思う。	3 — 4 4 4
		生徒	本校では、語学力や国際力向上のために、外務省や外部の専門機関と連携した取り組みが充実していると思いますか。	3.3	3.4	▲0.1			
		教員	本校では、語学力や国際力向上のために、外務省や外部の専門機関と連携した取り組みが充実していると思いますか。	2.8	3.0	▲0.2			
	22	保護者	本校では、国際社会に貢献する意識を高めるために、オンライン交流やSDGs等の世界的な課題に関する学習が充実していると思いますか。	3.3	3.3	—	オンライン交流は実施回数や対象人数が減少させている。これは対面での交流機会が増加したことにより、国際交流に関わる対象人数は増えていると考える。交流先及び頻度や対象生徒についての見直しを行っている。国際社会に関する課題や学習機会はC.C.C.等の時間をとおして設けている。C.C.C.の中で自ら課題を発見し、それらに対する解決策を探る力を育てていきたい。	・本校のオンライン交流やSDGs等の地球規模の課題に関する学習は、生徒たちの国際貢献意識を養う上で、現時点で十分な内容であると感じております。 ・熱心に取り組まれていると感じます。 ・問題は無いと思います。必要な見直しを行いつつ、生徒に良い機会を提供していただくことを期待しています。	3 — 4 4 3
		生徒	本校では、国際社会に貢献する意識を高めるために、オンライン交流やSDGs等の世界的な課題に関する学習が充実していると思いますか。	3.3	3.4	▲0.1			
		教員	本校では、国際社会に貢献する意識を高めるために、オンライン交流やSDGs等の世界的な課題に関する学習が充実していると思いますか。	2.8	3.1	▲0.3			
23	保護者	本校では、海外留学の推進など、世界を舞台として自己実現やキャリア形成を考えられるような取り組みが充実していると思いますか。	3.3	3.2	0.1	文部科学省が展開する「トビタテ！留学JAPAN」を含め留学に関する情報提供を進路指導部、教務部と連携し支援を行っている。進路指導部と国際教育・事業部が連携して、長期留学や海外大学進学等の情報提供を行っている。令和7年度は、2年次1名が長期留学プランを提示したことで、より多くの生徒が世界への扉を開く手助けをしていただければと願っている。 ・学校名に恥じぬ取り組みであるとする。 ・教員のポイントが低い点が気になる。原因究明が必要である。 ・海外大学への進学などの実績もあり、よい指導ができていていると感じる。	3 — 4 3 4		
	生徒	本校では、海外留学の推進など、世界を舞台として自己実現やキャリア形成を考えられるような取り組みが充実していると思いますか。	3.4	3.5	▲0.1				
	教員	本校では、海外留学の推進など、世界を舞台として自己実現やキャリア形成を考えられるような取り組みが充実していると思いますか。	2.8	3.1	▲0.3				
総合	24	保護者	お子様を本校に入学させて良かったと思いますか。	3.7	3.7	—	昨年度に比べて、保護者の本校に対する総合的な評価は変化がないが、前述の各項目においては概して上昇している。各部・年次および教科指導において改善を図ってきた一定の成果が出ていると思われる。一方で、生徒および教員の評価は下降している。生徒の風紀面や学校環境の整備、および生徒同士の人間関係づくりにおいて、課題が残されているとの認識があるものと考えられる。他者への共感や多様な価値観を尊重する心を育み、生徒一人ひとりが安心して過ごせる環境づくりをさらに進める必要があると考える。教員については、生徒の学力向上を目指し教材研究を行い、様々な問題を抱える個々の生徒に寄り添った丁寧な指導を続けてきた。限られた時間の中で多くの校務を遂行するに当たり、教員全般に疲弊が見受けられる現状は否定できず、自己評価の低下の一因であると考えられる。前年踏襲に陥ることなく、教育活動の振り返りおよび精査を行うとともに、課題を全教員で共有し、チーム学校として全教員で教育活動の改善および働き方改革を進める必要があると考える。	・本校に入学し、この環境で過ごせたことは、親として本当に良かったと心から確信している。本校での多様な学びと経験、一生の宝物となる友人や先生方との出会いがあり、子供の日々の成長を間近で見守れることは、保護者として何よりの幸せである。教員の熱心な指導と、生徒たちの主体性を尊重する環境があるからこそ、子供は安心して困難に挑戦し、自分らしく羽ばたくことができていると感じている。 ・保護者、生徒の評価ポイントが高いことに好感が持てる。「生徒の風紀面や…」など課題はあるかと思われるが、「どうあるべきか」について、生徒と教員で意見交換した後、共有できるものが見つけられるよう、現場での指導をお願いしたい。また、教員の方が働きすぎないための努力もお願いしたい。	4 — 4 3 —
		生徒	本校に入学して良かったと思いますか。	3.6	3.7	▲0.1			
		教員	生徒に満足度の高い指導や、教育活動を実践出来ていると思いますか。	3.0	3.1	▲0.1			